

札幌医学技術福祉歯科専門学校  
学校関係者評価報告書  
(令和5年度)

学校法人西野学園

札幌医学技術福祉歯科専門学校

## 1 はじめに

学校関係者評価委員会は、より実践的な職業教育を実施していくため、教育活動に関する意見交換を通し、学校の自己点検評価結果について評価することを目的に設置されています。本校では、平成26年度より学校関係者評価委員会を開催しています。なお、委員は関連業界関係者、関連専門職団体、地域住民、卒業生等から構成されており、多様な観点から評価や意見をいただいています。

また、本校といたしましては評価していただいた結果に対して、指摘点は速やかに改善策を講じ、組織的・継続的に、地域や社会のニーズに適合した学校運営や教育課程の編成・実施に教職員一同で取り組む所存であります。今後とも関係者の方々をはじめ皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以下、「令和4年度学校自己評価」に対して実施された「令和5年度学校関係者評価」について報告いたします。

令和5年12月

札幌医学技術福祉歯科専門学校 校長 河合 宣孝

## 2 学校関係者評価委員名簿

氏名	所属
濱本 龍哉	新さっぽろ脳神経外科病院
藪 貴代美	北海道言語聴覚士会
三浦 邦彦	日本赤十字 北海道ブロック血液センター
岸本 隆美	社会福祉法人ほくろう福祉協会
杉山 智	札幌市中央区西第八町内会

## 3 学校関係者評価委員会開催日時

第1回 令和5年11月10日(金) 16:00~17:30

第2回 令和5年12月 5日(火) 16:00~17:30

#### 4. 令和4年度学校自己評価に対する学校関係者評価

札幌医学技術福祉歯科専門学校

自己評価項目		年度			学校自己評価	学校関係者評価
		4	3	2		
I 教育理念・目標	1 理念・目標・育成人材像は適切に定められているか。	4.7	4.7	4.5	西野学園の教育理念・教育目標が定められており、それを基に学校の教育目標・重点目標・教育方針などが定められている。	・教育理念・目標についての学校自己評価は適正であると認められる。
	2 社会のニーズ等を踏まえた学園・学校の構想を抱えているか。	4.5	4.7	4.4	令和4年1月に開催された経営会議の中で、理事長より令和4年度西野学園経営方針が発表された。第7次中期計画の2年目に当たり「ポストコロナへ向けた取組み」として、「N's委員会の継続」、「人材育成の強化」、「授業力アップに向けて」、「人口減少に対応できる経営力」などの社会のニーズ等を踏まえた8項目の発表があった。また、校長より職員会議等で、令和4年度学校経営方針・重点施策の説明がなされた。	
	3 理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか。	4.4	4.3	4.2	学生に対しては学生便覧を基に担任が説明を行い、父母等には懇談会等で周知している。その他、学園ホームページや印刷物(募集要項等)で周知している。	
II 学校運営	4 目標等に沿った運営方針が適切に策定されているか。	4.5	4.5	4.5	1月の経営会議で発表された学園方針(目標)を基に、学校および学科(部門)の運営方針が策定された。さらに、それらを達成すべく国試合格率向上、定員充足率向上、休退学率抑制などに向けた個人目標も策定されている。	・学校運営全般についての学校自己評価は適正であると認められる。
	5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか。	4.1	4.1	3.9	学園および学校の運営組織は明確に組織化されている。令和4年度より学校組織が一部変更され、校長・2副校長・統括部長を柱に5部(医療技術部、リハビリ部、福祉部、看護通信部、事務部)体制となった。	
	6 情報システム等による業務の効率化が図られているか。	4.1	4.3	4.1	教務事務支援システムやデスクネット NEO(事務処理)などの情報システムが導入され、業務の効率化が図られている。なお、教務事務支援システムは教職員からの要望をもとに、毎年見直しが行われている。また、学生も利用可能なグレイクサやRocket.Chat(ロケットチャット)も導入され、授業資料やシラバスの閲覧、授業アンケート、学生への連絡などに利用されている。	
	7 学校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか。	4.1	4.2	4.1	学校内総合力を高めるため、学校経営会議、部科長会議、職員会議、学科会議、各係活動等を通じて連携と協働体制強化を図っている。なお、リハビリ系3学科(理学療法士科、作業療法士科、言語聴覚士科)の連携強化を図るため、学科の枠を超えた取組みが行われている。	
	8 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4.5	4.5	4.1	ホームページ、印刷物、SNS等で教育活動について情報公開している。特に「職業実践専門課程」として認定されているため、各学科の国試合格率、退学率、就職率、講義内容等の詳細な情報をHP上で公開している。	
III 教育活動	9 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関として、修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4.6	4.7	4.6	各科は厚生労働大臣より養成施設として指定されており、それぞれの「指定規則」により細かい内容が規定されている。それに基づき、講義要項(シラバス)、コマシラバス、科目系統図などが作成されており、修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間が定められている。	・教育活動全般についての学校自己評価は適正であると認められる。
	10 学校行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか。	4.4	4.5	4.2	令和4年度の学校行事は、新型コロナウイルス感染症の影響を一部受けた。例えば入学式は入学生と最少人数の教職員での開催、卒業式は来賓の制限や3校合同の「卒業を祝う会」の中止などの影響を受けた。なお、西野学園祭はつどいむ(9月30日)で感染対策に配慮しながらの開催となった。その他、パスハイクなどの学科行事は状況を確認しつつ多くの学科で実施された。	
	11 授業規律を確保し、状況に応じて指導体制の見直しが図られているか。	4.5	4.5	4.3	学生便覧中の学生心得に、学校生活全般にわたるルールやマナーが定められている。その中に授業規律確保に関する留意事項の記載があり、それに基づき授業規律を確保している。	
	12 関連分野の企業、施設、病院、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか。	4.4	4.6	4.6	関連分野の施設・病院等からの要望、教育課程編成委員会や事業所ヒアリングでの意見、学生状況等に応じて教育課程の見直し時の参考としている。	
	13 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか。	4.6	4.6	4.5	学則ならびに教務規程等で基準が明確に定められている。	
	14 授業評価の体制が確立され、評価が適切に実施されているか。	4.4	4.4	4.4	授業終了後、学生に対し授業アンケート(5段階評価)を実施している。そのアンケートは教学マネジメント室で集約・分析され、その結果は非常勤講師を含めた各教員に結果表でフィードバックされている。また、公開授業を原則年1回(初任者は4回)実施し、他者評価を受け授業改善に役立てている。	
	15 職員の能力開発のための研修が行われているか。	4.3	4.3	4.3	教員の教育力を向上させるための研修として、教学マネジメント室主催による初任者研修、人事考課研修、中堅研修、リーダー研修など階層別の研修が実施されている。また、教員をフォローするための教学スーパーバイザー活動も実施された。その他、個人の裁量で研修先を選択し、個々の能力開発を行う「研修費制度」があるが、職能団体など外部の研修会はオンラインでの開催が多く、予算の執行率は33%(令和3年度は11%)であった。	
16 クラス担任と科目担当の連携を密にし、学生の実態にあった指導法の確立に努めているか。	4.4	4.6	4.5	クラス担任は科目の担当者(特に非常勤講師)と連携し、学生に関する情報のやり取りや学生からの授業に対する要望事項の伝達を行い、学生の実態にあった指導方法を依頼している。また、授業アンケートの結果は科目担当にフィードバックされており、またその内容は学科教員と共有化されており、連携を深める指標となっている。		
IV 学修成果	17 就職率の向上は図られているか。	4.8	4.8	4.7	学生サポートセンターによる就職ガイダンス、OB・OGの講話、担任や学生サポートセンター職員による個人指導(面談、応募書類の点検、面接指導等)、事業所説明会(臨床検査)、父母懇談会等により就職率の向上が図られている。令和5年3月末時点では、7学科のうち5学科は就職率100%となった。	・学修成果全般についての学校自己評価は適正であると認められる。
	18 退学率の低減は図られているか。	4.3	4.5	4.2	退学者数は令和4年度は31名(令和3年度29名、令和2年度37名)となった。度重なる担任を中心とした個人面談の実施や学生相談室の活用などにより退学防止を図っているが、安易に退学を選択する傾向が強くなっている。なお、退学理由は進路変更が90%と最も多いが、実態は試験不合格などの学習意欲の欠如、学外実習でのつまずき、学科(職種)への不適応などである。	
	19 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか。	4.1	4.1	4.0	卒業生の社会的な活動や評価の把握は、学科レベルでは時間の制約、担任の退職、卒業生の異動などで難しい状況である。学園としては学生サポートセンターによる事業所訪問、事業所アンケートなどで情報を得ているが情報は限られている。そのため、西野学園同窓会「西桜会」にかける期待は大きくなっている。令和4年度は歯科衛生士科の支部設立や道南地区の地区同窓会が開催されるなど活動は前進しており、より直接的に活動・評価を把握することが期待される。	

V 学生支援	20	学生相談に関する体制は整備されているか。	4.7	4.7	4.5	クラス担任制をとっており、学生全員の個人面談を早期に実施している。また問題があると思われる学生に対して、その都度個人面談や状況により父母等面談を実施している。また、学生サポートセンターの学生相談室と連携して、問題の把握・早期解決に努めている。	・学生支援全般についての学校自己評価は適正であると認められる。
	21	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。	4.7	4.8	4.5	修学支援新制度(返済不要奨学金)を利用している学生は、令和4年度は90名(令和3年度は81名)が利用した。また、返済必要奨学金の利用者は約64%に上った。その他、学園独自の支援体制として「学費支援制度」、「特別経済支援制度」、「遠距離通学サポート制度」等が活用されている。また、コロナ対策としてPCR検査費用の補助制度も実施された。その他、函館臨床福祉専門学校(募集停止)にあり、道南地区在住者限定の修学支援制度(新生活準備 10万円、帰省費用 1回1万円※年3回まで、渡島檜山管内就職 30万円)の導入を決定した。	
	22	保護者と適切に連携しているか。	4.4	4.5	4.5	令和4年度の入学式は、入学生および最少人数の教職員による開催となったため、式後に実施予定の父母等対象の懇談会は中止となった。一方で各科の懇談会は別途開催された。また、出席状況や成績状況等は長期休業前に送付しており、学業や私生活で問題のある学生には、電話連絡や面談を実施するなどの対応(連携)をしている。	
	23	卒業生への支援体制はあるか。	4.3	4.5	4.4	教員や学生サポートセンター職員による事業所訪問時の状況確認や卒業生向け機関紙「りあん」の発行、西野学園同窓会「西桜会」に対する「西野学園同窓会支援チーム」による支援、学生サポートセンターによる卒業生対象の再就職支援体制等が整えられている。	
	24	ロングホームルームなどを効果的に活用し、職業観の育成に努めているか。	4.6	4.6	4.4	ロングホームルームなどを活用し、学生サポートセンターによる卒業学年を中心とした就職ガイダンスやOB・OGによる講話、見学実習等により職業観の育成に努めている。	
	25	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4.4	4.3	4.2	令和4年度も新型コロナウイルスの影響で、オンライン授業も一部実施されたが、オンライン授業対応の教育環境はほぼ整備された。また、学習支援としてグレクサやコミュニケーションツールとしてロケットチャットが導入されており、新たな展開が期待される。	
	26	学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が実践されているか。	4.4	4.4	4.3	入学した学科の専門職に対する意識を高めることにより、学生が自己理解、自己啓発、自己実現出来るよう、見学実習、卒業生による講話等の方策をとっている。	
VI 教育環境	27	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4.5	4.2	3.9	施設・設備は指定規則に則り、必要な物品等は管理・整備されている。また、毎年、各学科からの物品購入計画に基づき、適宜更新を進めている。なお、予算上、教育効果のある機器・設備を購入している。	・教育環境全般についての学校自己評価は適正であると認められる。
	28	図書館利用の活性化が図られているか。	4.7	4.5	4.5	通常時は平日が9時から20時30分、土曜日は9時30分から18時まで開館している。令和4年度の前半は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、閉館時間の繰り上げや、土曜日が閉館するなどの影響を受けた。なお、年度途中からは通常営業に戻り、平日の平均利用人数は令和3年度に比較し約90%増加し、在校生や卒業生に活用された。	
	29	防災に対する体制は整備されているか。	4.6	4.6	4.5	自衛消防組織を編成し、避難経路も定められている。また、緊急連絡網、人命等に関する緊急時の対応が定められている。なお、5月に避難訓練、10月に防災訓練を実施した。	
VII 学生募集	30	学生の募集は適正に行われているか。	4.5	4.6	4.4	学生の募集は学則や募集要項に則り適正に行われている。入学試験は入試規程、入試判定基準等により実施されている。なお入試規程は入試制度委員会が適宜見直されている。	・学生募集全般についての学校自己評価は適正であると認められる。
	31	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4.5	4.5	4.4	募集要項等の印刷物、進学相談会、体験入学、学校説明会等の学生募集活動において、教育内容、学校生活、国試合格率、就職状況等に関する事柄は正確な内容を受験生に提供している。また、学園ホームページにも情報公開されている。	
VIII 財務	32	中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか。	4.4	4.2	4.4	学校(学園)の財政基盤は、負債(5億2,700万円)に対し資産(56億7,600万円)と約10倍あるため、中長期的には安定している。	・財務についての学校自己評価は適正であると認められる。
	33	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4.4	4.4	4.5	予算・収支計画は学園本部で策定し、理事会で承認後施行されている。令和4年度事業活動収支計算書によると、収入は約18億1,233万円(予算18億8,959万円)、支出は約18億1,812万円(予算18億5,000万円)となった。以上より予算・収支計画は実際の収支決算と近いので、計画は有効かつ妥当な範囲であったと言える。	
IX 法令等の遵守	34	法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4.6	4.7	4.6	法令・専門学校設置基準等を厳格に遵守のため、日常より教務関連書類は学科内や学科相互間で確認ミス防止に努めている。また、西野学園幹事による教学監査が7月と9月のそれぞれ3日間実施した。なお、道による指導調査が3学科(臨床検査技師科、理学療法士科、作業療法士科)対象に9月に実施されたが、指摘事項は無く終了した。	・法令等の遵守についての学校自己評価は適正であると認められる。
	35	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4.7	4.7	4.6	学園の業務の適正かつ円滑な運営を図るとともに、個人の権利利益を保護することを目的として「西野学園 個人情報保護方針」が定められている。また、学生への指導方針として「個人情報保護法に関する学生指導指針」があり、主に学外での実習時の個人情報保護の秘密保持義務などが指導重点項目として定められている。なお、学外での実習時には実習先と個人情報保護に関する協定を締結している。	
X 社会貢献等	36	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4.5	4.4	4.2	多くの研修会・講演会はオンライン開催だったため、講堂や視聴覚室の貸出しは減少傾向が続いた。また、前年度はほとんど中止となった、中学生向けの職業体験「次世代人材職業体験推進事業」や高校生を対象とした「上級学校訪問」などは一部実施された。その他、北海道高等学校教育研究会理科部会が1月に本校で開催された。また、体育館の利用はほぼ通常に戻り、少年サッカー一回、忍者ナイン(幼児・小学生向けスポーツ教室)、また新たに中学生向けバスケットボールスクールなどへ貸出した。	・社会貢献等についての学校自己評価は適正であると認められる。
	37	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	4.4	4.1	4.0	福祉系の学科を中心にボランティア活動は必須となっており、その他の学科も関連団体の要請に基づき学校として奨励・支援している。また、石山通りの花壇整備や校庭清掃などは学生主体で実施した。	
全体平均			4.5	4.5	4.3	<評価基準>4段階 適切-5 ほぼ適切-4 やや不適切-3 適切-2 (わからない-1)	

## 5 総括

令和4年度は前期を中心に「新型コロナウイルス感染症」の影響が色濃く残り、行事の一部が中止、オンライン授業の実施、学外実習の一部が中止になるなどの影響を受けた。一方で、感染状況の改善に伴い、感染対策を実施した上で、学園・学校行事の実施、通常授業や学外での実習の再開など正常化に向けた取組みが徐々に開始された。

第一回委員会では、このような状況の下での令和4年度学校自己評価に対して、委員の方からの意見や質疑に対して応答する形式で進化した。学校運営、学修成果、学生支援、教育環境、学生募集、法令等の遵守など幅広い範囲に対する意見や質疑を頂戴した。また、第二回委員会では第一回委員会での意見や質疑応答の内容を報告した後、学校自己評価の妥当性について審議し判定していただいた。

今後とも課題解決に取り組むため、学校関係者(関連企業(団体)・地域等)との連携協力を深め、学校教育理念・目標の達成に努めたい。

以 上